

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (01729016688), 法人名 ((有)旭川高齢者グループホーム), 事業所名 (グループホームほーぶ旭川), 所在地 (北海道旭川市永山12条2丁目5番1号), 自己評価作成日 (平成30年8月29日), 評価結果市町村受理日 (平成30年10月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議を年6回開催することにより、地域へ介護の理解が深まっています。地域の町内会の運動会に呼ばれたりしています。各居室に洗面台とトイレが完備されており法人内のグループホームと連帯をして利用者様の支援に努めています。通院支援を事業所対応しています。利用者様の外出支援については、買いもの同行や図書館同行を行っています。季節に応じて冬まつり見学や桜の見学を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=01729016688-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年10月3日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当地区に移転して5年目を迎える事業所は、JR南永山駅から徒歩5分の閑静な住宅街に位置している。2階建ての1階には6名、2階には9名の15名体制2ユニットで、バリアフリー設計の事業所内は、清掃が行き届き、悪臭も無く、窓からの陽射しも明るく開放感がある。居室に至ってはトイレ、洗面台、クローゼット、物干しポールが設置され、プライバシーを守りながら、自立をサポートする設備が整えられたプライベート空間となっている。地域密着型事業所として、町内会に加入し、年6回開催の運営推進会議には町内会役員や民生委員の参加を得て、運営状況の報告と共に、地域情報の収集を行い、事業所の透明性を図りながら、地域の理解や支援に繋がる様に取り組んでいる。利用者は、ギターやオカリナの演奏ボランティアの訪問を受けたり、クリスマスには元職員家族がゲスト参加して一緒にクリスマスソングを歌ったり、運動を楽しむ等、憩いの時間を過ごしている。ドライブを企画し、旭山公園の桜見物や冬の雪まつり見物等、利用者に季節を感じてもらおう支援に努めている。屋内でも誕生会や秋祭り、クリスマスの行事にラジオ体操、カラオケ、塗り絵等のレクリエーションを工夫し利用者の気分転換に努めている。個別ファイルした行事写真は、家族が来訪時に見て喜ばれている。人員配置が難しい中、法人のバックアップとオーナーの業務支援を得て、利用者の安らぎの場となる様に努力している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日2回申し送り時にケアに対する意識のずれがないように話しをされています。	運営法人で策定した理念を共通理念とし、共有空間に掲げ、職員への意識化は基より、来訪者への理解に繋げている。朝、夕の申し送りでサービス提供時での気付きを確認し、情報を共有しながら、理念に沿ったケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会へ加入しています。廃品回収への協力や毎年8月に町内の運動会に参加しています	町内会の一員として、リサイクル活動に協力している。職員は地元住民に声掛けし挨拶を交わす等、人々と係わり接点を持つ様に努めている。クリスマスに元職員家族がゲスト参加したり、ギターやオカリナ演奏等のボランティア訪問は利用者の憩いの時間となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2から3カ月ごとに開催し取り組みへの報告や意見交換を行っている。	運営推進会議は2カ月毎に開催している。包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、利用者、家族の参加の下に、事業所運営の報告や参加者から質問、意見、情報等を受け、地域の理解や交流促進の機会に繋げている。	運営推進会議への参加を書面にて要請しているが未だに参加の機会が少ないので、来訪時や電話連絡時を活用して、口頭でも積極的に参加要請を重ねる事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険担当者、生活保護のケースワーカーや地域包括支援センターが主催の連絡会へ参加して情報交換を行っています。	運営に関する書類提出は、主に法人本部で対応している。事故報告書や運営推進会議録等の提出は直接窓口に伺い、実情を説明し指導を仰いでいる。包括支援センター主催の連絡会に参加し情報交換に努め、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のおそれのある方には、家族の方と相談して同意を得てベットの柵を利用したり、センサーマットを使用しています。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体拘束廃止委員会を今年度から運営推進会議で開催し、透明性を図っている。毎月のミーティングで勉強会を設け、身体拘束の弊害について情報を共有し理解に努めている。センサーマット使用は家族の同意の下に、安全第一に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを通じて防止に努めています。虐待が見過ごされないように注意しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に重要項目事項説明。利用者様のご家族の方が施設を訪ねた際に不安等を聞いて納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族の方が施設を訪ねた際に家族の意見を聞いて運営に反映させています。	家族の訪問時や電話の際には、利用者の状態について報告し、家族からは希望を聞いたり要望を汲み取る様に努めている。運営推進会議の議事録発送時に、行事写真も添えて事業所での様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングの際に意見や提案を聞く機会を設けています。	毎月のミーティングや朝・夕の申し送りで、職員の思いや提案等を聞き取っている。不参加の場合も申し送りノートを活用して、気付きや意見等を記載し、全員で情報を共有し検討しながら運営に活かしている。定期的に法人職員が来訪し、個別の相談も受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り就労環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じてサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	利用者様やご家族様との連絡を取りながら本人の困っている事や要望を聞き、安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来所された時等に普段の生活等を伝えて、ニーズ等を聞きながら、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を把握する。経過を記録にまとめ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を行う際に暮らしを共に築くため声掛けやコミュニケーションを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所や外出、電話を通じて、本人との絆を大切にしながら本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係継続に努めています。	友人、知人、家族に手紙を出す、電話をかける、訪問して頂く等、馴染みの人との繋がりを取り持つ支援に努めている。以前居住していた場所や図書館などにも車で支援している。家族の協力を得て、墓参りや家族の自宅訪問も叶えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やおやつの時間にコミュニケーション作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をしていても病院へ様子を見に行き家族から経過を聞いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を聞き支援に役立てています。	家族からの情報を基に、利用者と暮らしを共にする中で、本人の思いや意向を聞き取り、把握に努めている。職員は申し送りノートで、互いの情報を提供して共有を図り、アセスメントも年1度、見直しをかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のフェイスシート等を利用して本人の過去の話しを聞くなどをして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや声かけを行い把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い意見を出し合っています。	モニタリングは3か月毎に行っている。毎月のミーティング時に職員間で利用者の状況を確認し合い、課題や問題点を抽出し、介護支援専門員が中心となり、6か月毎に見直している。緊急時は随時見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わったことがあれば報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わったことが無くとも様子を把握してサービスの多様化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味や特技を聞き出し生かせる事を増やしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく希望を大切にしています。	利用者、家族の希望を重視し、家族の協力も得ながら、職員が基本となり受診の支援に努めているが、利用者の半数が送迎付きの協力医療機関への受診を希望している。看護師である管理者や訪問看護師により、日常の体調は把握出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌等を通じて体調の管理や行動の変化を情報収集して適切な受診や看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様や病院との連絡や病棟を訪れる等をして情報の収集が出来るように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の要望を出来るように支援を把握する。経過を記録にまとめ対応に努めています。	医療連携体制の下に、重度化対応の指針を作成し、家族に説明を行い同意を得ているが、現状の協力医療機関は往診の体制が整わず、看取り支援には至っていない。重度化や終末期に際しては、系列の他施設及び医療機関への移行を視野に入れて家族と話し合い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを読んでいるだけで実践できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網と避難訓練を年2回実施しています。	今年度は6月に防火設備業者の立ち合いの下に夜間想定火災訓練を実施している。次回の訓練日程は検討中である。近隣住民も含めた連絡網が作成され、備蓄品は法人本部が対応している。	地域住民の参加協力を得て、年に1度は消防署の適切な指導の下で実践的な避難訓練が実施される事を期待したい。更に、自然災害時対応マニュアルを整備し、胆振東部地震から見えてきた課題の解決に向けた災害対策強化に取り組む事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応には注意しております。	利用者への接遇は年長者として敬いのある言葉かけや対応を心がける様に、管理者は常に指導している。個人情報の取り扱いも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の意向を尊重。不可能な時には、家族の協力を得ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日のペースができていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診時や外出時に着たい服を選んでいただいています。1か月に1回訪問の理容師を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に後片付けを毎日行っています。	委託業者からメニューに沿った食材が届き、栄養バランスの取れた手作り料理を日々提供しているが、誕生日等の行事食には利用者の意向を取り入れた特別食を企画し喜ばれている。利用者の望む作業を職員と共にいき、連帯感を築きながら生活リハビリに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の栄養バランス等を考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に応じてケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を活かして支援しています。	居室にトイレが設置され、利用者の生活リズムに沿ったトイレ排泄支援が行われている。排泄状況は、自立者からの申告や誘導時での確認によって把握し、記録に残し共有されている。衛生用品の使用は家族と相談の上、検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様に応じてケアしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度の重度な方が多く実施は難しい。	浴室は2ユニット共有としており、週2回を目安に入浴を支援し、衛生保持に努めている。入浴日は決まっているが、利用者の状況によっては変更し対応している。拒む利用者には、声掛けやタイミングを図り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に応じて眠剤服用し夜間眠られています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状について理解して服薬の出来る支援の実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様を理解して一人ひとりの生活にとりいれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、家族に依頼しています。	職員の配置が厳しく、町内会行事参加は叶いませんが、春には旭山公園の花見や冬には旭川冬まつり見学をドライブで楽しんでいる。個別対応で図書館に出かけ支援している。家族の協力の下に、お盆や正月の外出や外泊で墓参りや温泉に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、基本的に施設で管理していますが所持金額については、少額持参されている利用者がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を利用しています。職員が代弁したり利用者や家族の協力を得て支援しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期によって生活感や季節感を取り入れた飾りを行っている。	玄関入口から内部までバリアフリー設計で、事務室とリビングを中心に左右に居室が配置されている。リビングに繋がるキッチン是对面式で、見守り易く会話も弾む空間となっている。リビングに設置された大きな窓から、明るい陽射しが差し込み、外の様子も窺えて、それぞれの季節を感じる空間となっている。壁には、利用者の作品やスナップ写真、季節行事の飾りが施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がホールや食堂で談笑できるように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいています。	居室の一部壁色が違う事で自室が認識出来る工夫と、トイレ、洗面台、クローゼット、物干しポールの設置で、プライバシーの確保と、自立に向けた環境作りが成されている。家族の協力の下に、馴染みの家具を持ち込み、家族写真や絵画、カレンダー等も飾り、利用者の意向に沿った居心地良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内でのトイレには表札をかけたたり工夫をして少しでも自立した生活が送れるように支援しています。		